

林子平の生涯

元文三（一七三八）年

幕臣岡村良通の次男として江戸で生まれる。

元文五（一七四〇）年

叔父・林従吾（医師）に預けられ、養われる。

宝暦六（一七五六）年

林従吾死去、兄が封を継ぎ、仙台藩士となる。

宝暦八（一七五八）年

仙台伊達藩校「養賢堂」入校、江戸訪問

宝暦八年 宝暦事件

宝暦八年〜同十一年

仙台藩内を踏査

（一七六一）

宝暦十一年 江戸大火、清国が東トルキスタンを平定

宝暦十三〜明和二年

建白書『富国建議』執筆（明和二年 藩に提出）

（一七六三）

（一七六五）

明和元年 伝馬騒動

明和四年〜明和八年

江戸遊学（五年間）明和五年 高山彦九郎に出会う

（一七六七）

（一七七二）

明和八年 おかげ参り、露軍艦が阿波藩領に漂着

明和九（一七七二）年

蝦夷地探訪

明和九年 目黒行人坂の大火

安永元年〜安永四年

江戸遊学（三年間）

（一七七二）

（一七七五）

安永元年 田村意次、老中となる。

安永四（一七七五）年

長崎遊学（三カ月間）阿蘭陀商館長ヘイトに出会う

（一七七七）

（一七七八）

安永五年 アメリカ独立宣言、アダム・スミス『国富論』

安永五年〜安永六年

江戸遊学（二年間）

（一七七六）

（一七七七）

安永五年 露艦ナタリヤ号が得撫島に来航

安永六年〜安永七年

長崎遊学（安永七年 唐人暴動を鎮圧）

（一七七七）

（一七七八）

安永七年 露艦、蝦夷地に来て松前藩に通商を要求

天明元（一七八一）年

建白書提出

天明二（一七八二）年

長崎で『蘭船図説』発行『海國兵談』執筆開始

天明三（一七八三）年

建議書提出 工藤平助『赤蝦夷風説考』刊行

天明五（一七八五）年

天明三〜八年 天明の大飢饉（奥羽より全国に及ぶ）

天明五（一七八五）年

『三國通覧図説』著す。（四八歳）

天明七（一七八七）年

天明七年 松平定信、老中筆頭となる。

寛政三（一七九一）年

『海國兵談』全十六卷三八部刊行（五四歳）

寛政四（一七九二）年

小伝馬町牢屋敷に入牢

寛政五（一七九三）年

寛政四年 露使節ラクスマンが根室に来て通商要求

寛政五（一七九三）年

写本四部作成後、仙台で病死。享年五十六

寛政五年 松平定信が老中職を退く